

# 品質こそ我等が未来

齋藤 靖

(興栄建設株式会社 代表取締役)



### ■お客様へ良いものを

弊社は、1975年（昭和50年）に創業した建設業です。地元では建築工事、土木工事などを含めた総合建設業として事業を展開していますが、業務全体におけるメインは建築鉄骨の製造になります。

業務において最も力を入れていることは、「品質」です。これが何よりも優先です。弊社のお客様はゼネコンと商社がほとんどを占めますが、そのお客様へ工程に合わせて良い品物を納めるということです。日々、様々な技術が新しくなっており、そうしたものを勉強しながら、速く、良いものを作ることをモットーにしています。

今までの工事は首都圏が半分ぐらいを占め、主な施工実績としては、衆議院議員会館、バスタ新宿、高輪ゲートウェイ駅などがあり、それなりに知名度のある物件もやらせていただきました。社員には、「建築はずっと残っていくものなので、自分たちがそういう物件に携わったという誇りと責任をもって仕事をしてほしい」といつも言っています。建築の面白さはそこにあり、自分の携わった建物が何十年も「街のシンボル」になっていくという醍醐味を味わうことができるのです。

弊社が製作している建築鉄骨は、建物が完成してしまうと外からは見えなくなります。しかし、地震などが発生したときは建物を支えるという重要な役割を果たすなど「縁の下の力持ち」である、ということも社員には話しています。

### ■コストアップ

どの業界も同じだと思いますが、私どもの業界でも3年ぐらい前に比べると材料費は1.5倍ほどになっており、ほかに石油関係や電気料、さらにボルト、溶接資材などの副資材も値上がりしていますので、コスト全体では3年ほどで4～5割の増加となっています。そうしたコストアップ分を受注先から頂ければ良いのですが、まるまる全部は頂けません。その分、利益率は下がります。

運賃もだいぶ上がっています。弊社は、地元の工場で作成した建築鉄骨をつくり、それを首都圏などの現場まで運ばなくてはなりません。そのため、運賃は大きなコストになるのですが、現在、「運送業界の2024年問題」が叫ばれており、来年からは運送が制限されるケースが出てくることは避けられないと見ています。その対策をいま行いつつあります

が、まず遠くまで運ぶことが制限されますので、「なるべく近場へ運ぶ」ということを考えています。例えば、都内中心部よりも北関東など近い現場の仕事を中心にしていく必要があります、取組みを進めているところです。

## ■ロボットの活用

「働き方改革」の中で社員の労働時間短縮をはかってきましたが、従来と同じ業務量をこなすためには、作業の機械化（ロボット活用）が必要不可欠になっています。そのため、現在、ロボットの更新や増設を進めています。また、ロボットが増えたことによって工場が手狭になってきましたので、製品を一時保管する「製品ヤード」の新設を計画しています。

このように、従来と同じ業務量をこなすにしても自動化・設備投資がどうしても必要であり、それらに取り組んでいるところです。ロボットに関してですが、弊社では多くの種類のロボットを導入しています。例えば溶接では大きく2種類のロボットがあり、同業他社の多くはこの2種類を持っています。弊社は、より幅広い種類のロボットを持っていますので、受注できる仕事が多くなるという強みがあります。

また、業務を効率的に進めるため、受注の量とタイミングには細心の注意を払っていますが、それでも業務の繁閑の波が出てしまいます。そのため、仕事が空き気味になったときには他社の仕事のお手伝いをさせてもらうなどして、繁閑調整をはかっています。



(本社工場 内部)

## ■溶接の重要性

ここで溶接の重要性について少し触れたいと思います。

鉄骨を扱う仕事の出来栄を最も左右するのが溶接です。溶接の仕事は、一人前になるまで最低でも5～6年かかります。ロボット・機械があっても、人手による溶接はどうしても必要ですし、そこが弊社にとっても「勝負どころ」と言ってよい重要な作業なのです。しかし、一人前になるまで長くかかるせいか、残念ながら途中で退職してしまう人もいますし、せっかく一人前になっても、そこで退職する人もいます。

加えて、溶接は弊社における工程の最後の部分になりますので、前の工程の作業が遅れると、そのしわ寄せが溶接工程に行ってしまうことになり、なかなかプレッシャーの多い仕事でもあります。

## ■人材不足への対応

コロナ禍に入る頃まで、地元高校の新卒男性を毎年5～6名採用していました。その後は新卒男性をほとんど採用できなくなり、一方で女性の応募が多くなっています。このような状況は弊社だけのことではなく、建設業界全体において新卒男性の採用が難しくなっているようです。

これまで、弊社は外国人実習生の受入を考えていなかったのですが、「背に腹は代えられない」ということで、かねてより懇意な経営者仲間のアドバイスもあり、この秋にインドネシア人3名を受け入れることにしました。イスラム教の国ということで宗教上の様々な配慮は必要ですが、仕事ぶりは真面目で、頑張ってくれそうです。

また、女性が活躍する場をつくっていくことも重要です。求人に応募してくる女性は少なくなく、採用後は検査などの業務に携わってもらうことが多いのですが、今は現場監督を務める女性も出てきています。本音を言えば、不足している溶接業務の人員になってもらいたいのですが、いずれにしても企業が「女性の活躍推進」に力を入れて取り組んでいくことは、人材不足を克服するためにも必要だと強く感じています。

## ■今後の計画

本社・本社工場の敷地にまだ余裕がありますので、「資材ヤード」をつくりたいと考えています。また、先ほども触れましたが、屋根付きの「製品ヤード」も計画しています。これは、業務量が少ないときに早めに製品を作ってストックしておくことにより、業務量の平準化とあわせ、工場スペースの有効活用が可能になります。

営業活動の方針も変えていきます。「運送業界の2024年問題」への対応として、既に東北の商社の仕事を多くしていますが、今後もできるだけ工場に近く、運送距離の短い仕事を増やしていきたいと考えています。もちろん、県内の仕事は従来以上に積極的に対応していきます。

弊社は、お蔭様で来年度の2025年2月に創業50周年を迎えます。引き続き、「品質こそ我等が未来 コストは下げるためにある」の社是の下、今までの経験と実績をふまえ、「技術と信頼」を弊社の最大の財産として、社会奉仕の精神を忘れることなく、さらなる品質の向上と、皆様のご期待に添えるよう努力して参ります。



(本社 外観)



(本社工場 外観)

## 会社概要

- |         |  |
|---------|--|
| 1 会社名   | 興栄建設株式会社   |
| 2 代表者   | 代表取締役 齋藤 靖   |
| 3 所在地   | 〒014-0072 大仙市大曲西根字西道地野502番地2   |
| 4 電話番号  | 0187-68-2288 (代表)  |
| 5 F A X | 0187-68-4488   |
| 6 U R L | <a href="https://koei-con.com">https://koei-con.com</a>  |
| 7 設立    | 1975年(昭和50年)2月   |
| 8 従業員数  | 124名(2023年10月現在)   |
| 9 事業内容  | 鋼構造物工事・建築一式工事・土木一式工事 ほか  |
| 10 経営理念 | 発注者の要求と期待に応える構築物を提供し、社会に貢献するために、社員一丸となり、高品質の達成を目指す。<br>1. 発注者の要求を満たし期待に応えることが、社会への貢献と我が社の発展につながる。<br>2. 全社員、明確な目標を設定し、いかに達成するかを計画し実施する。<br>3. チームワークの中で、自らの役割・責任を認識し行動する。<br>4. 一人一人が常に問題意識を持ち、小さな改善行動を実践し、大きな改善へつなげる。<br>5. プロ集団としての認識と誇りを持つ。 |